



医療連携センターだより No.34

みなとから の 風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)
<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2018年1月 医療連携センター

Contents

- | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------------|---|
| ■2018年のご挨拶 | 1 | ■外来患者さんの栄養指導 | 3 |
| ■形成外科診療紹介と「キズあと外来」の開設について | 2 | ■第22回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会 開催のご報告 | 4 |
| ■精神科のご紹介 | 3 | ■新任医師のご紹介 | 4 |

2018年のご挨拶



横浜市立みなと赤十字病院
院長 野田政樹

明けましておめでとうございます。

平素大変お世話になり誠に有難うございます。お蔭をもちまして昨年も地域の中核病院として当院が活動させて頂くことができましたのも地域の先生方のお力添えの賜物と深く御礼申し上げます。

2017年4月に当院は、職員全員の尽力により日本医療機能評価機構の病院機能評価を受け、これまでの10年間に続き3回目の認定を頂くことができました。この評価では、1領域「患者中心の医療の推進」2領域「良質な医療の実践1」3領域「良質な医療の実践2」4領域「理念達成に向けた組織運営」の4つの領域からの審査が行われました。さらに、健診センターにおきましても、日本人間ドック学会からの「人間ドック・健診施設機能評価」の認定書を頂きこの領域でもさらに地域への貢献をさせていただくことに注力して参ります。

当院は地域において救命救急医療を担わせて頂いておりますが平成29年3月末までの一年間の救急車搬送患者数は12,623件で、前年に比べ1,176件増加し、これは全国でトップクラスでした。また、救急車以外の患者を含めた救急患者数は23,304人で、こちらは前年に比べて994人の増加であり、断らない救急を掲げた結果救急車受け入れ率は99.1%で前年に比べて1.8%増加しています。救急医療ではこれらに加えて年間3,000人以上の小児救急医療を行い、神奈川県周産期救急医療システムの協力病院の地域周産期母子医療センターとして、周産期救急医療を行うことが出来ました。

外科の手術数も順調に増加しており平成29年3月末までの1年間では5,988件となり、前年に比べて291件増加し、これは5.1%の伸びで、過去5年間では最大件数となりました。この中でも全身麻酔の件数をみると3,889件であり、こちらは前年に比べて414件と10%以上増えておりこちらも過去5年間では最も多い件数でした。先端的な医療の提供の面では手術支援ロボット“ダビンチ”を用いた手術は泌尿器科

を中心に年間57件を行っています。低侵襲の手術は現代の外科の重要な特徴ですが、その中でも整形外科では、腰部脊柱管狭窄手術数の低侵襲治療では県内で第一位の実績を挙げ、外科・産婦人科など各診療科において体に優しい低侵襲の手術を多くの患者さまに提供しました。

循環器の領域では循環器内科と心臓血管外科の両科による「センター」が活動し24時間365日のサービスを提供しました。特に、2017年から心臓外科ではホットラインを設置しており緊急のケースに応需させて頂いております。このような整備の結果、心臓血管外科の手術数は226件を数え前年に比べて26件増加しました。冷凍カテーテルアブレーションを導入している循環器内科では1780件を施行し、前年に比べこちらも147人の増加となりました。2017年後半より手術室にハイブリッド手術室を設置する工事が開始されており、完成後にはTAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術）などのさらに高度な循環器の先端的な医療の提供が可能となる予定です。

当院は、横浜市からアレルギー疾患の政策医療を担う役割を頂いておりますが、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、小児科、皮膚科、膠原病・リウマチ内科、アレルギー科、眼科の関連診療科の連携のもとに医療を提供しております。このなかでは、地域の学校などの職員等への食物アレルギーの研修会を26回行わせていただきました。また、気象情報に基づく個別喘息予報はマスコミにも報道されております。身体合併症患者や救急に関連する精神科疾患の治療も当院の特徴であり、身体合併症においては前年を3割ほど上回る件数の医療を提供しました。

がんセンターでは、地域がん診療連携拠点病院として多種のがんの治療に対応して実績をさらに挙げております。当院に設置している緩和ケア病棟や一般病棟では、がん性疼痛や精神的ケアにも力をいれました。中でも緩和ケア病棟の入院患者数は262人になりました。

特に、地域医療支援病院としては586施設の医科の登録医の先生方ならびに134施設の歯科の登録医の先生方にご助力をいただき厚く御礼申し上げます。具体的には紹介患者数は20,139人で前年に比べ1,530人の増加を頂き、紹介率は95.3%となり深く感謝を申し上げます。さらに地域の先生方にお引き受け頂いております逆紹介患者数は16,621件にのぼり前年に比べ696件増加し皆様に心より御礼申し上げます。

本年も病院職員一同、地域の皆様の御指導ならびに連携を頂きながら患者さんへの万全の医療の提供に努めて参る所存ですので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

形成外科診療紹介と「キズあと外来」の開設について

形成外科 部長 横山 明子

日頃、近隣の先生方には患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。形成外科は、当院開設当初は前任の部長である伊藤医師が1人体制で診療を開始しましたが、東京医科歯科大学形成外科の関連施設として医師が勤務するようになり、3人体制になりました。2015年に現部長である横山が着任し、伊藤医師の築かれた体制を基に、更なる改良を少しづつ加えております。

2017年に入って行った改良の一つ目は形成外科診察室の移転です。これまで口腔外科エリアで診療を行っていた形成外科診察室を、2017年3月に呼吸器・整形外科エリアに移転しました。よりプライバシーに配慮した環境となり、7月の電子カルテリプレイス後には診察室への受付番号での呼び込みも可能となりました。

二つ目は「キズあと外来」の開設です。従来の午前の外来診療とは別に、2017年9月より「キズあと外来」を第1.3週の木曜午後に開始し、林副部長・西村医師が主体となって診察しております。「キズあと外来」ではヤケドやケガなどの外傷後のキズあと、手術

の縫いキズのキズあとなど、いろいろなキズあと（瘢痕）を治療対象とします。出来たばかりの瘢痕は成熟するまでの手入れ方法の指導、つっぱりなどが生じている瘢痕は手術による拘縮の解除、保存的治療でも内服治療や軟膏、テープ剤、注射薬などの選択、ケロイドに対する放射線治療など、形成外科の瘢痕に対する知識と技術を駆使して、患者さんに治療を提供いたします。しかしながら、現在の医療では瘢痕をなくすことは出来ません。比較的目立たない瘢痕については、治療をお勧めしないこともありますので、ご理解ください。なお、午前中の通常診察枠でも瘢痕の治療は行っておりますので、患者さんの受診しやすい曜日・時間帯で、ご予約ください。

また、形成外科ではキズあと（瘢痕）のみならず、外傷（熱傷、皮膚軟部組織損傷、顔面骨骨折）、皮膚・軟部腫瘍、先天異常、皮膚潰瘍、眼瞼下垂など、体表面を主体とした様々な疾患を治療しています。引き続き、形成外科にご紹介いただきますようよろしくお願いします。

【外来診療体制表】

形成外科			月	火	水	木	金	備考
	午前	新患・再診	西村祐紀	横山明子		横山明子	林 大海	
		新患・再診		林 大海		西村祐紀		
	午後	新患・再診				★キズあと外来		★第1・3週 (紹介予約制)

(平成29年12月現在)



形成外科スタッフ
(前列左) 横山部長、(後列中央) 林副部長、(後列左) 西村医師

精神科のご紹介

精神科 部長 京野 穂集

2017年4月より精神科部長を務めております京野穂集（きょうのほつみ）と申します。臨床家として患者さんの病気だけではなく生活を診る事、親切、丁寧な診療を心掛けております。

当院の精神科病棟は2007年に開棟し、おかげさまで病棟開設後10年が経ちました。精神科病棟は全閉鎖の50床で、精神科救急合併症入院算定施設です。神奈川県の政策医療である精神科救急医療に基幹病院として参画しており、自傷他害のおそれがある措置入院患者さんの診察、受け入れを行っております。

また、神奈川県の精神科身体合併症事業の中核的役割を担っており、昨年度は事業全体の8割以上を受け入れました。政策医療のほか、院内他病棟入院中患者さんのせん妄やうつ状態などへの対応、更には救急外来経由の過量服薬、自殺企図の患者さんの精神状態の評価など当



道垣内医師 池井医長 京野部長 行実副部長
山口医師 橋本医師 小林医師

科の関わる領域は多岐にわたります。

医師は7名で、比較的若い人材が多いのが特徴です。皆フットワークが軽く、バランスのよい親切なメンバーが揃っています。当科の課題としては、立地の問題もあると思いますが、救急で来院される患者さんの数に比べて、外来初診の患者さんが少ないことが挙げられます。

精神科の診断というのは、除外診断ですので、特に初発の患者さんは総合病院精神科で十分時間をかけてお話を伺い鑑別診断を行うことで正確な診断治療につながり患者さんのメリットも大きいと考えています。

地域の医療機関の先生方におかれましては、何か精神面でお困りのことがございましたら、お気軽に当科にご紹介いただければ幸いです。今後も地域に根差した頼れる精神科を目指して参りますので宜しくお願ひいたします。



病棟スタッフ

外来患者さんの栄養指導

栄養課 課長 田代 保恵

当院栄養課の管理栄養士は9名おり、その内1名は栄養サポートチーム専従栄養士のため、外来及び入院の栄養食事指導は8名の管理栄養士で担当しています。内容としては糖尿病をはじめ高血圧症・腎臓病・心臓病・脂質異常症・肝臓病・肥満症・がん治療による食欲不振や低栄養等の栄養食事指導を行っています。基本的には事前予約制ですが、外来診療中の医師が食事療法を早期に必要と判断された際は、初診当日でも短い待ち時間で外来栄養食事指導を受けて頂ける体制を整備しています。更に継続指導が必要な場合は、次回受診日に合わせ再指導予約をさせて頂き、患者さんやご家族が食事療法を理解できるまでフォローを致します。医師からの栄養食事指導オーダーの指示栄養量（エネルギー量、蛋白質、塩分、カリウム、水分等）を管理栄養士が把握した上で、難し

い栄養計算を患者さんには出来る限り避け、栄養士が具体的な食品に置き換えて、フードモデルや栄養指導媒体を活用し、患者さんやご家族に理解し易い指導を心がけています。

今までの食生活をどのように改善すれば、無理なく食事療法を継続できるか、栄養食事指導を行うにあたり、医師・看護師さんの問診、検査結果と共に、患者さんの食生活をはじめとする全体像を把握し丁寧な指導を心掛けております。そして患者さんの頑張りを評価しながら、患者さんやご家族自らが食べ方の工夫を考え、様々な問題点を克服しながら食事療法を実践して行けるよう支援させて頂きます。微力ではありますが、地域医療連携に貢献出来るよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



栄養課・管理栄養士



外来栄養指導の様子

第22回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会 開催のご報告

医局学術 太田一樹

去る10月4日(水)崎陽軒横浜本店で第22回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会を開催しました。

本研究会は、近隣4区(中区・南区・磯子区・西区)医師会医師と、当院医師の顔の見える連携構築のため、毎年開催する研究会です。

今年度は南区医師会にご担当をいただき、約100名の先生方にご参加いただきました。

今回の内容は、南区医師会から、いどがやケンズクリニック院長川田剛裕先生より「クリニックにおける

糖尿病診療の現状と将来の展望～かかりつけ医に求められる糖尿病治療とは～」のご講演をいただき、当院からは膠原病リウマチ内科 渋江副部長より「“かぜ”的診断、その前に、その後に」、緩和ケアセンター 小尾センター長より「緩和ケアとみなとの緩和ケア病棟」を講演しました。

研究会終了後は、情報交換会を開催し、交流を深め、大変有意義な会となりました。



研究会の様子



南区医師会 池田会長



南区医師会 いどがやケンズクリニック
院長 川田 剛裕先生

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介させていただきます。

今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

* * * 質問項目 * * *

①診療科（専門領域） ②取得指導医、専門医等 ③卒業大学 ④卒業年 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言！

ヨナハヨシコ

與那霸佳子



- ①健診センター（予防医学）
- ②日本人間ドック学会 指導医
- ③東京女子医科大学
- ④昭和59年
- ⑤ピアノ、ミュージカル鑑賞
- ⑥地域の皆様の疾病的予防・早期発見、健康維持増進の一助となる様、努めてまいります。

タカセ カナ
高瀬 香奈



- ①脳神経外科
- ③北海道大学
- ④平成25年
- ⑤スキューバダイビング
- ⑥地域医療に貢献できるよう頑張ります。

シモダ ヒロシ
下田 浩



- ①神経内科
- ③久留米大学
- ④平成25年

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



横浜市立みなと赤十字病院

日本赤十字社

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

病院ホームページ

